



第40回 **全国豊かな海づくり大会**

よみがえる 豊かな海を 輝く未来へ ~ 食材王国みやぎ大会 ~

本 編



大会概要

- ▶大会名称 第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会～
- ▶主 催 豊かな海づくり大会推進委員会
第40回全国豊かな海づくり大会宮城県実行委員会
- ▶後 援 農林水産省、環境省
- ▶開 催 日 令和3年10月3日（日）
- ▶開 催 地 宮城県石巻市
- ▶会 場 式典行事……………マルホンまきあーとテラス
（石巻市複合文化施設）
海上歓迎・放流行事…石巻市水産物地方卸売市場石巻売場※
石巻漁港
※以降は石巻魚市場と表記します。
リモート行事……………仙台国際センター展示棟
- ▶参加者数 式典行事……………371人
海上歓迎・放流行事…737人 ※式典行事参加者を含みます。
リモート行事……………129人
- ▶大会テーマ 「よみがえる 豊かな海を 輝く未来へ」
- ▶大会キャラクター 仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」





開催の意義

宮城県は、東北地方の南東部に位置し、東は太平洋に面し、西部は奥羽山脈、北東部には北上山地、南部には阿武隈山地が連なり四季折々の姿を見せ、中央部の仙台平野には北上川、阿武隈川といった大きな河川が流れ、肥沃な大地は日本有数の穀倉地帯となっています。

また、宮城の海は、世界有数の三陸沖漁場の南方に広がり、沖合には季節ごとに行き交う黒潮、親潮が豊富な海の幸を運んできます。水産業は、豊かな食と生活を実現しながら、固有の風土や文化も育てており、震災以前は、全国第2位を誇る漁業生産量を背景に、全国各地に良質な水産物を安定的に供給する役割を担ってきました。加えて、水産業は漁獲、水揚げ、流通及び加工の各段階で多種多様な産業を構築しており、本県経済、とりわけ沿岸地域の振興に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、県内に142ある漁港の全てが被災したほか、本県で営まれている様々な漁業、沿岸部に集積していた流通・加工に関する産業は壊滅的な被害を受けました。これにより、漁業生産量は震災前に比べ半減するとともに、水産加工関連事業所も激減しました。

そこで宮城県では、平成23年度から令和2年度までの10年間で復興を成し遂げるための道筋を示す「宮城県震災復興計画」や、本県水産業の復旧・復興に向けた取組の継続・強化と新たな水産業の創造を視点を「水産業の振興に関する基本的な計画」を策定するとともに、国や全国の民間事業者等から多くの支援を受けながら、県民一体となって早期の復旧・復興に取り組んでまいりました。

こうした中、令和3年度に、本県において「全国豊かな海づくり大会」を開催することは、東日本大震災で全国の皆様からいただいた数多くの御支援に対する感謝の想いと復興が進んだ本県水産業の姿を全国に伝える絶好の機会となります。併せて、豊かな自然と歴史ある文化に育まれた宮城の魅力を発信するとともに、県内漁業者や水産関連業者の意欲を更に高め、本県水産業の一層の振興・発展につなげていくことも目指します。



基本理念

郷土宮城が誇る豊かな自然と水産資源の保護を目指し、海・河川・森の環境保全の取組を推進するとともに、東日本大震災からの復興が進んだ水産業の持続的な発展と地域の活性化を図り、全国からいただいた支援に対する感謝の想いと本県の農林水産物の魅力を全国に発信します。

基本方針

①東日本大震災からの復興状況の発信

県内外から参加した皆様に、被災した沿岸部の基幹産業である水産業の復興が進んだ姿や、災害に備えた新しいまちづくりが進んできている姿を御覧いただく等、震災からの復興の状況と支援への感謝の気持ちを全国に伝える大会とします。

②豊かな自然環境の保全

宮城県は、複雑な地形を有するリアス式海岸と長大な砂浜海岸が連なり、風光明媚な地形を形成しているほか、沖合には世界三大漁場の一つである三陸沖漁場が広がっています。

また、蔵王連峰や船形連峰に連なる山々、東北地方最大の広さを誇る仙台平野とそこに流れる北上川、阿武隈川等の大河川、さらには伊豆沼、内沼等の湖沼をはじめとする豊かな自然環境に恵まれています。

これらの豊かな自然を全国に発信し、自然がもたらす「豊かな恵み」に感謝するとともに、森から河川・湖沼を経て海へと至る自然環境を守り続けていくことを次世代に受け継ぐ大会とします。

③多様な漁業を中心とした水産業の発展と地域の活性化

本県沿岸で営まれる漁船漁業、養殖業を将来にわたって持続させるため、資源管理型漁業や栽培漁業の推進、養殖種苗の安定確保に向け一層取り組むとともに、漁業を支える担い手の確保・育成のほか、各地で水揚げされる多彩な水産物を使った魚食普及や食育活動による水産物の消費拡大に取り組み、宮城の豊かな自然環境を生かした水産業と地域の発展につなげる大会とします。

④食材王国みやぎの発信

宮城県は、海、山、大地が育む食材に恵まれています。特に、全国有数の水産県である本県は、沿岸及び沖合・遠洋漁業により水揚げされる多種多様な水産物やノリ、カキ、ワカメ、コンブ、ホタテガイ、ホヤ、ギンザケに代表される養殖物があり、地域ごとに特色ある食文化をつくり出しています。また、水揚げされた水産物を利用した水産加工品の生産も盛んであることから、本県自慢の「食」の魅力を全国に発信する大会とします。



大会概要

会場配置図



式典行事会場

マルホンまきあーとテラス
(石巻市複合文化施設)



海上歓迎・放流行事会場

石巻魚市場・石巻漁港



リモート行事会場

仙台国際センター展示棟



大会概要

大会参加者

行事名	会場	人数	内訳
式典行事	マルホンまきあーとテラス	371人	県内257人、県外114人
海上歓迎・放流行事	石巻魚市場・石巻漁港	737人	県内549人、県外188人 ※式典行事参加者を含みます。
リモート行事	仙台国際センター展示棟	129人	県内20人、県外109人
合計		866人	

出演者

◎式典行事出演者

区分		団体名等	人数	
プロローグ	ナビゲーター	鈴木 京香	1人	
式典	司会進行	藤沢 智子 (フリーアナウンサー)	1人	
		守屋 周 (東北放送アナウンサー)	1人	
	登壇者	大会会長賞受賞者代表	宮城県漁業協同組合仙南支所 (山元)	1人
		農林水産大臣賞受賞者代表	福島県漁業協同組合連合会	1人
		環境大臣賞受賞者代表	公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会	1人
		水産庁長官賞受賞者代表	荒尾漁業協同組合	1人
		宮城県知事賞受賞者代表	東松島市立赤井小学校6年 長坂 良夢	1人
		最優秀作文発表者	石巻市立蛇田小学校4年 大森 心結	1人
	大会旗入場	大会旗入場 (先導)	学校法人ひばり幼稚園	12人
		大会旗入場 (旗手)	宮城県水産高等学校	5人
	国歌静聴		熊谷 育美 (シンガーソングライター)	1人
	大会記念放流 稚魚等の御紹介	介添者	石巻市立桜坂高等学校	7人
		若手漁業者等	宮城県漁業協同組合石巻市東部支所 石森 隼人	1人
宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所 鈴木 颯太			1人	
宮城県漁業協同組合志津川支所 工藤 忠司			1人	
海づくりメッセージ	志津川淡水漁業協同組合 千葉 純一	1人		
	宮城県漁業協同組合石巻市東部支所 運営委員長 石森 裕治	1人		
	新規漁業就業者 高橋 未希	1人		
	宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所 カキ部会長 後藤 清広	1人		
エピローグ		鈴木 京香 (再掲)	—	
		熊谷 育美 (再掲)	—	
全体	手話通訳者	一般社団法人宮城県聴覚障害者福祉会みやぎ通訳派遣センター	4人	
	要約筆者	一般社団法人宮城県聴覚障害者福祉会みやぎ通訳派遣センター	4人	
	式典補助員	石巻市立桜坂高等学校	13人	
合計			62人	



大会概要

◎海上歓迎・放流行事出演者

区 分		団体名等		人数	
海上歓迎・放流行事	司会進行	石川 太郎 (フリーアナウンサー)		1人	
		宮田 敬子 (フリーアナウンサー)		1人	
	海上歓迎行事	漁船パレード	宮城県漁業取締船「うみわし」		8人
			JF Arahama II		8人
			第二十一富治丸		7人
			まつ丸		6人
			第七快進丸		7人
			第三十八黄金丸		6人
			第十五宝来丸		5人
			第三十七八興丸		8人
			宮城県漁業調査指導船「みやしお」		18人
	放流行事	歓迎演奏	雄勝町伊達の黒船太鼓保存会		13人
		誓いの言葉	石巻市立寄磯小学校		4人
		介添者	宮城県気仙沼向洋高等学校		25人
合 計				117人	

スタッフ

区分	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	延べ
宮城県	9人	540人	815人	8人	1,372人
石巻市		59人	59人		118人
宮城県漁業協同組合		16人	16人		32人
派遣看護師		3人	4人		7人
合 計	9人	618人	894人	8人	1,529人